

活動報告

第1回アジアスポーツ栄養学連携セミナー 参加報告

元永恵子 *1、大嶋里美 *2

*1 国立スポーツ科学センター、*2 早稲田大学スポーツ栄養研究所

本セミナーは、2014年度の第1回日本スポーツ栄養学会の国際シンポジウムで発表された韓国Kyung Hee大学体育学研究科副長のHyon Park先生と、早稲田大学スポーツ栄養研究所所長の田口素子先生との連携によって、(独)日本学術振興会の二国間交流事業の一環として2015年7月24日に韓国Kyung Hee大学で開催されたものである。

Opening Ceremony

プログラムは、最初にHyon Park先生、同じくKyung Hee大学の体育学研究科長であるSub Sunoo先生、田口先生からの挨拶、および韓国運動栄養学会会長のKi-Won Lim先生からの祝辞があった。

Session I Academic Topics

ここでは計8演題の発表があり、うち日本からは3演題が発表された。まず国立健康・栄養研究所の高田和子先生が「Introduction of energy metabolism studies for Japanese athletes」、というタイトルで、日本人アスリートのRED-S (Relative Energy Deficiency in Sport) に関する分析結果を発表した。次に田口先生が「Practical research into weight control for Japanese Athletes - focused on weight gain strategy-」と題し、アスリートの増量についての知見を紹介した。その後元永が「Influence of carbohydrate intake on muscle glycogen recovery after exercise in Japanese endurance-trained subjects -Adopting a new methods-」という演題で、日本人アスリートを対象に運動で枯渇した筋グリコーゲンの回復が、食事に含まれる炭水化物量の違いでどのような差があったかを発表した。いずれの発表も活発な質疑応答が行われ、休憩時間にも演者の元には質問者が訪れる状況であった。韓国側からはDongduk女子大学のChang-Sun Kim先生が「Effects on exercise on RANK-RANK-



写真1 挨拶をする Hyon Park 先生。



写真2 挨拶をする田口素子先生。

OPG pathway in bone metabolism」、Seoul女子大学のKyung-Won Kim先生が「Eating habits, physical activity and related factors by obesity degree in lower-grade school children」、Sangmyung大学のJin-Kyung Park先生が「Nutrition intervention program for integrated Health Care」、Seoul女子大学のHyyuki Jang先生が「Effects of creatine supplementation and



写真3 セミナー発表者と主要スタッフの集合写真。



写真5 Session IIの座長を務めた呉泰雄先生。



写真4 Session Iの座長である韓国ナショナルトレーニングセンター栄養士のSungsook Cho先生(左)と Konkuk大学の Jonghoon Park 先生。Jonghoon Park 先生は筑波大学に留学されていた。

exercise on antidepressant behavior and brain serotonin expression in mice」、Chonbuk国立大学のYeon-Soo Cha先生が「L-carnitine; is it an ergogenic aid?」を発表した。生理・生化学的なものから韓国の子供たちの教育や肥満、韓国の低所得地域への健康プログラムについてなど、幅広い分野の内容であった。

Session II Field Topics

プログラム後半のSession IIでは3演題が発表され、韓国側からはMonster GymのHo-Uk Lee先生が「The potential of intra-workout nutritional intervention with purpose of ideal body composition on athletes」として、サプリメント、特にBCAA摂取の効果を紹介した。日本からは早稲田大学スポーツ科学研究科の村田浩子さんが「Sports nutrition management for Japanese collegiate athletes」というタイト

ルで日本の公認スポーツ栄養士による大学女子選手の減量サポートを、長坂聡子さんが「Sports nutrition management for elite Japanese athletes」で同じく公認スポーツ栄養士による陸上ナショナルチームの増量サポートについてそれぞれ発表した。長坂さんの質疑応答では時間が足りず、懇親会で個別対応することになるほど、セミナーは白熱した。

おわりに

このセミナーではいくつか特筆すべき成果があった。まず1つ目に、今回のセミナーを通じて日本と韓国のスポーツ栄養学のつながりが、より強まったことが挙げられる。日本側からの参加メンバーの一人でさらにSession IIの座長も務められた松本大学の呉泰雄先生は、日本スポーツ栄養学会の評議員であり韓国運動栄養学会の理事でもある。田口先生とHyon先生が今回のセミナーを企画されるにあたり、日韓の架け橋として活躍された呉先生の功績は大きい。また韓国側には筑波大学、日本体育大学等日本の大学に留学されていた先生が何人もおり、日本でのスポーツ栄養の研究に大変興味を持っていた。日本スポーツ栄養学会会長の高田先生と韓国運動栄養学会会長のKi-Won Lim先生とのつながりが深まったことについては言うまでもない。

2つ目に、今回のセミナー受講が韓国側では日本の公認スポーツ栄養士にあたる資格更新のための単位とされ、大勢参加していたことが挙げられる。Session Iは英語で、Session IIは通訳を交えて母国語での発表であったが、一般参加者も積極的に質問していた。日本では大会期間中と10月頃に更新講習会が開催されるが、次年度以降にこのセミナーが日本で開催された場合には、ぜひ日本でも受講による単位認定と、それに伴う参加者の増加、参加者のアジアでの最新の知見の取得ができる機会となることを期待したい。

さらにSession I の座長を務められた韓国ナショナルトレーニングセンター栄養士のSungsook Cho先生は、Sports Dietitians Australiaを取得され、両国が世界の動向を確認しながらもアジアでのスポーツ栄養学の交流と発展を望んでいることも確認できた。

今後も早稲田大学スポーツ栄養研究所とKyung Hee大学との連携、日本と韓国とのスポーツ栄養学研究の連携は継続され、アジアからの情報発信につながると期待される。

（受付日：2015年12月7日）
（採択日：2016年1月6日）